

## 国際探究 I 「教養講座 II」

(日時) 平成28年7月7日(木) 14:20~16:05

(場所) 本校第1体育館

(対象) 1年生全員239名

(講師) ジェトロ秋田貿易情報センター所長  
大山 明裕 氏

(目的) 海外FW先であるオーストラリアの食糧や農業事情を、メルボルンに赴任経験のある大山所長から伺い、自分たちの足元である郷土秋田の農業と食糧の問題から世界や農業大国の問題に目を向ける。

(内容) オーストラリアやメルボルンの地域性や文化、農業や食糧事情などについて、基礎的な教養を身に付ける。

(方法) 本校第1体育館で講演を聴講する。

(生徒の活動評価)

活動観察、メモ・振り返りシート、質問内容  
(指導上のポイントと仕掛け)

海外フィールドワークの行き先であるオーストラリアの食や農に関する講話を聴くことで、今後の活動に向けての関心と意欲を高める。事前に秋田の貿易事情に関する新聞記事を読ませ、県内事情を考えさせる。

(講座を振り返って)

国際探究 I が始まってから7回目の講話となり、生徒達も動きに慣れてきたようだ。整列はスムーズに行われ、よい流れで講座がスタートした。内容は、オーストラリアの現状から日本・秋田との関わりなど多岐に渡り、さすがは貿易の専門家と感心させられた。生徒にとっては少し難しかったかもしれないが、今までの講座で培ってきたものがあれば、今日の講話は大変興味深いものであったと思う。質問の内容のレベルが上がってきている。今までの講座で培った知識を基に考えることができる生徒が増えつつある。夏季休業中のテーマ設定が楽しみである。

(生徒の振り返りから)

- ・ 売り込むときには相手国の文化を理解し、その上でどのような商品をおくのかを絞っていく必要があることを学んだ。戦略が大事だ。オーストラリアは「農業」という武器を持っている。秋田も同じだ。
- ・ 貿易の観点から見ると、以前の講座で積極的に加工品を輸出すべきだというお話と、今回の「一県一支援案件」がつながった。やはりとれたものをそのまま輸出しても付加価値が低く、デメリットも多くあると思った。加工の仕方も工夫の余地があり面白そうだ。

